

徳島県におけるヤマビルの採集記録

金城芳典*・山城 考**・山城明日香**

Records of land leech *Haemadipsa japonica* in Tokushima Prefecture, Japan

KANESHIRO Yoshinori*・YAMASHIRO Tadashi**・YAMASHIRO Asuka**

Key words: land leech, *Haemadipsa japonica*, Shikoku

吻無蛭目ヤマビル科ヤマビル *Haemadipsa japonica* は日本に生息する唯一の陸生吸血ヒルであり, 分布は本州, 四国及び九州となっている (Oka, 1910). しかし, この記録以外, 四国での確実な分布記録はない (神奈川県ヤマビル対策共同研究推進会議, 2009). 今回, ヤマビルを徳島県で採集したので報告する.

ヤマビルは, 徳島県教育委員会の委託事業である「平成25年度特別天然記念物カモシカ通常調査 (徳島県)」を実施する際, 調査員にヤマビルの採集を依頼し, 畦内文美氏に2013年11月12日に徳島県那賀町海川 (環境省 3次メッシュ: 50345230) で採集していただいた. この個体 (図1) は, 体表に3本の線があり, また, 多くの乳頭状突起が認められた (図2). 身体の腹面端部に2つの吸盤を確認したことから (図3) ヤマビルと同定した. 海川についてはヤマビル研究会のホームページ (<http://www.tele.co.jp/ui/leech/index.html>) にも確認記録がある. なお, 採集した個体については99%アルコール液浸標本で金城が保管している.

ヤマビルはニホンジカ *Cervus nippon* の蹄に入り吸血することが知られている (神奈川県ヤマビ



図1. 採集個体. メッシュサイズは1 mm.

ル対策共同研究推進会議, 2009). そのため, 千葉県ではニホンジカは, ヤマビルの分布拡大に大きく関与していることが指摘されている (浅田ほか, 1995). 金城は, 2009年から2011年にかけて剣山山系で捕獲されたニホンジカ38頭の蹄を確認したが, 吸血痕は認められなかった. 四国でもニホンジカの分布が拡大しているが (財団法人 自然環境研究センター, 2002), ヤマビルは確認されていない. ヤマビルは暗く湿潤な環境を好むと

*特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター

〒785-0023 高知県須崎市下分乙470-1

Shikoku Institute of Natural History, 470-1 Shimobun otu, Susaki 785-0023, Japan

**徳島大学大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1丁目1

Graduate School of Integrated Arts and Sciences, The University of Tokushima, 1-1 Minami-josanjima,

Tokushima 770-8502, Japan

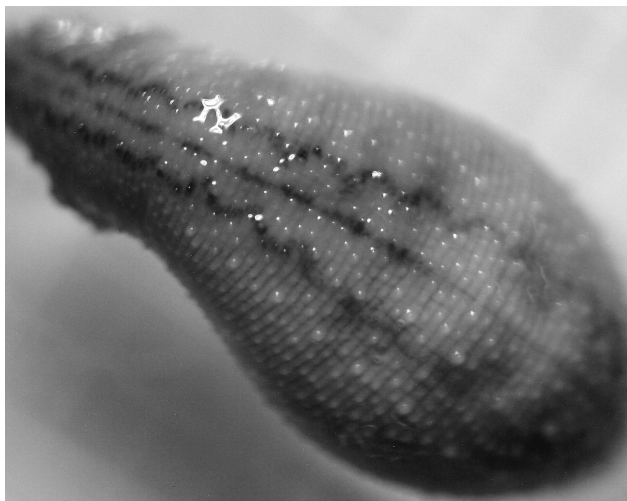


図2. 採集個体の背面.

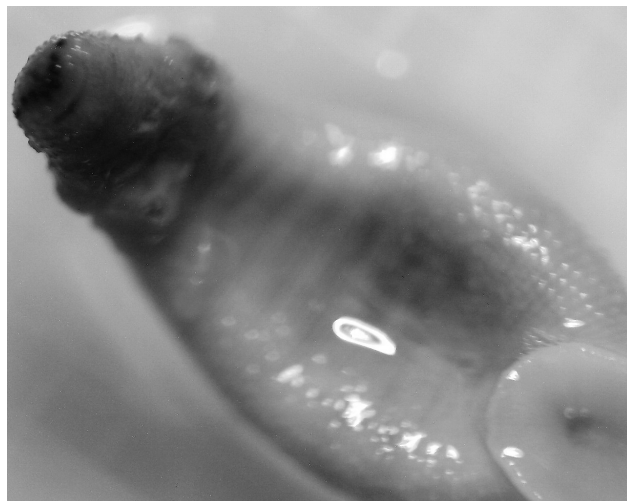


図3. 採集個体の腹面.

考えられているが（神奈川県ヤマビル対策共同研究推進会議，2009），四国では，夏に沢筋などを歩いても通常，ヤマビルに吸血されることはない。畦内文美氏（私信）によると，徳島県那賀町海川では昔から狭い範囲に生息していたということである。葦田恵美子氏（私信）は2011年8月に高知県香美市東笹（環境省3次メッシュ：50335755）でヤマビルを1匹確認している。物部森林組合でも，高知県香美市物部町周辺で山仕事を行っている際，靴下を履いていても足から出血していることがあるという（物部森林組合，私信）。このことから，少なくとも徳島県那賀郡那賀町にはヤマビルが分布しているが，その範囲は限られており，生息密度も低いと考えられる。

謝 辞

畦内文美氏には，ヤマビルを採集していただき，また，貴重な情報を提供頂いた。葦田恵美子氏及び物部森林組合には貴重な情報を提供頂いた。ここに記し，心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 浅田正彦・落合啓二・山中征夫. 1995. 房総半島におけるニホンジカに対するヤマビルの寄生状況. 千葉中央博自然誌研究報告 3 (2): 217-221.
- 神奈川県ヤマビル対策共同研究推進会議. 2009. ヤマビル対策共同研究報告書. 神奈川県, 神奈川, 107pp.
- Oka, A. 1910. Synopsis der Japanischen Hirudineen, mit Diagnosen der neuen Species. Annot. Zool. Jpn., 7(3): 165-183.
- 財団法人自然環境研究センター（編）. 2002. 生物多様性調査 動物分布調査（哺乳類）報告書. 環境省自然環境局 生物多様性センター, 山梨, 241pp.

（原稿受理：2015年12月18日）